

(8) 近畿



近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

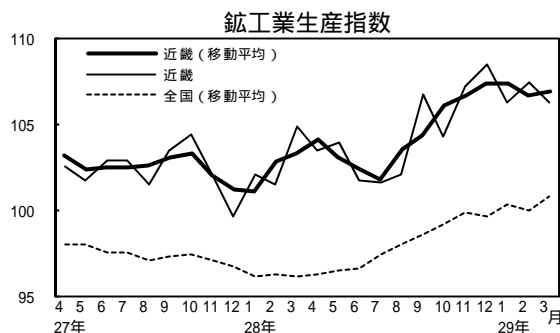
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年2月)	今回(平成29年5月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
個人消費	足踏み	底堅く推移	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期は、石油・石炭製品、化学、プラ製品は、減少した。電子デバ、電気・情報通信は、減少した。汎・生産・業務用機械は、減少した。鉄鋼業、非鉄金属、金属製品は橋りょう等が増加したことにより増加した。窯業・土石、その他工業は、減少した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
 2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 近畿は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	2.1	1.9	3.6	1.5	0.4
電子デバ、電気、情報通信	18.0	1.2	2.7	2.0	1.4	0.8
汎・生産・業務用機械	17.9	9.6	0.6	4.5	0.6	2.0
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	0.0	11.1	9.0	0.0	2.7
窯業・土石、その他工業	9.6	1.7	0.7	0.5	2.1	2.1
鉱工業	100.0	3.1	0.0	1.9	1.0	1.0

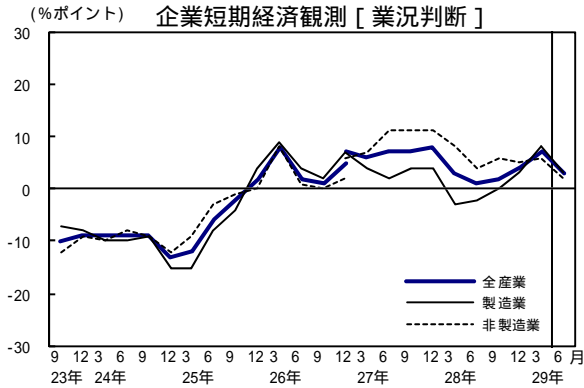
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

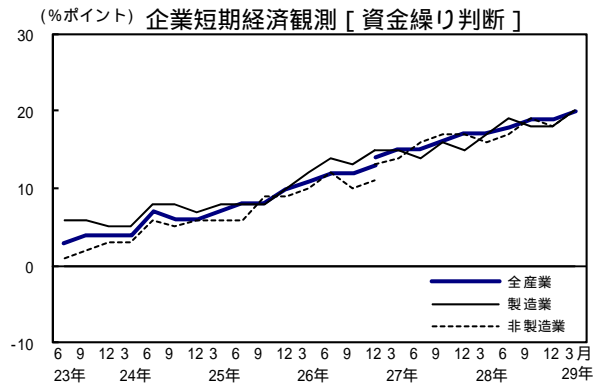
(8) 近畿

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

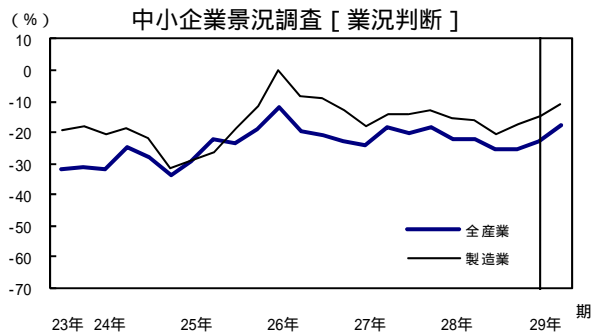
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」- 「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」- 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

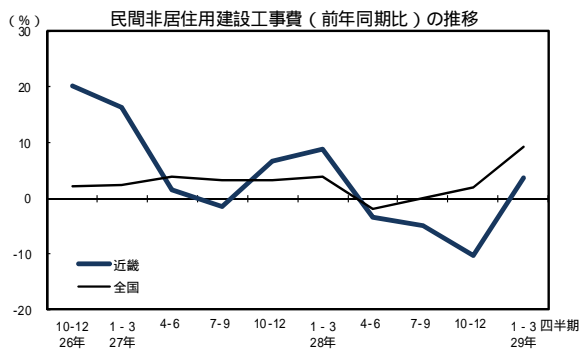


(備考) 「好転」- 「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「受注や引き合いの状況をみると、景況は横ばいのようなのである (一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績見込み	29年度値
全産業	3.9(4.7)	0.6
製造業	12.4(6.4)	4.2
非製造業	1.7(3.4)	2.1

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

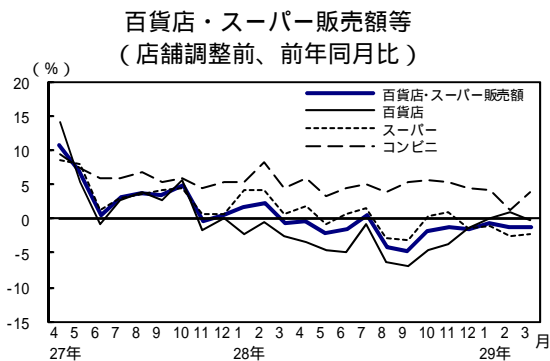
1月は前月比0.7%減、2月は同0.6%増、3月は同0.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1月は、農産品の相場高の影響で食料品が堅調だったことに加え、訪日外国人に対する販売などに動きがみられたものの、天候不順等により衣料品等が不調となり、前年を下回った。2月は、引き続き訪日外国人に対する販売などに動きがみられたものの、前年がうるう年であったことの反動から、前年を下回った。3月は、訪日外国人に対する販売が好調であったものの、衣料品をはじめとした春物商品が不調となり、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「前年の11月以降、堅調な営業が続いており、4月の既存店来客数の前年比も103%を超えている。曜日別でも、全ての曜日で前年をクリアしており、良くなっている手ごたえを感じる (一般レストラン)」などの回答がみられた。



	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.8	0.7	0.6	0.1
百貨店・スーパー(*2)	1.0	0.6	1.2	1.3
百貨店(*3)	0.2	0.2	0.9	0.3
スーパー(*3)	1.9	1.1	2.5	2.1
コンビニ(*3)	3.2	4.1	1.3	3.9
乗用車(*4)	8.9	5.2	10.1	10.4
(季節調整値)(*4)	2.8	6.3	2.9	0.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

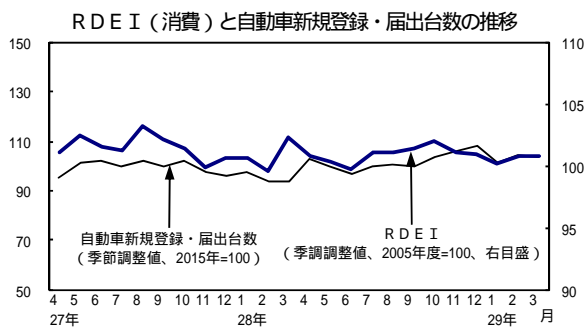
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

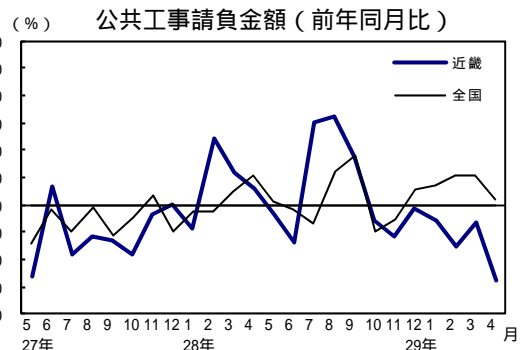
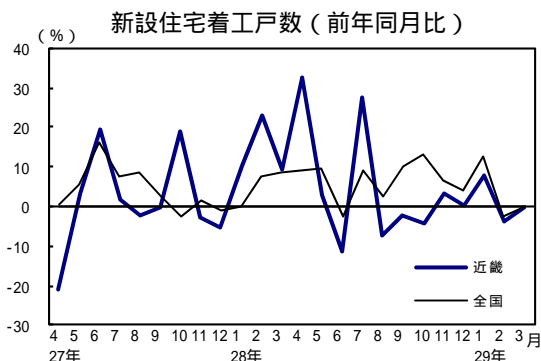
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



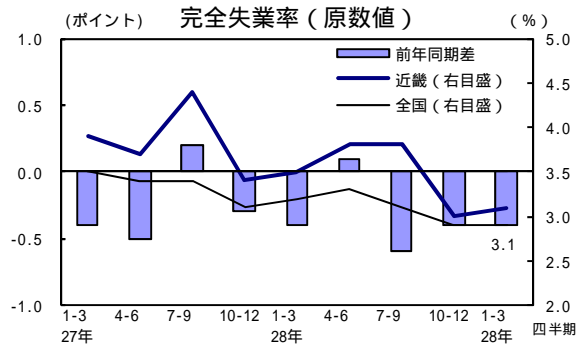
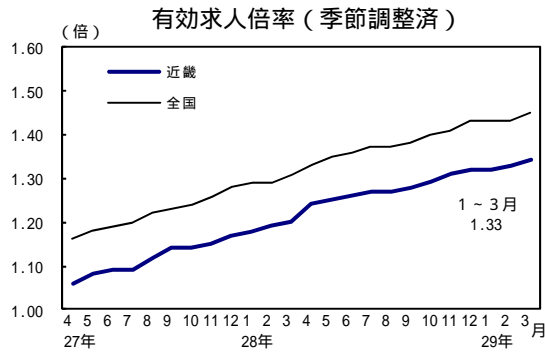
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]

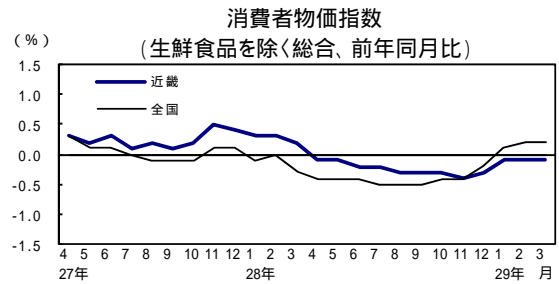
「4月のスタートに向け、求職者数が伸びていたが、4月に入ってから減っている。ただし、企業の求人数には変化がないので、この求職者の減少は一時的な動きと思われる (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	532	512	507	506	163
(前年比)	10.0	5.4	4.5	4.0	8.9
負債総額	592	550	5,794	481	225
(前年比)	10.5	9.4	1110.4	49.2	10.8



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・インバウンドの好調もさることながら、来客の固定客化が進み、来客数全体の60%を優に超えている。それに伴い、来客数が前年比で2けた近い伸びを示している (百貨店)。

<先行き>

・これまでは需要量に対して供給量が全く見合っていなかったが、この2~3か月の間に供給量が大幅に増えるため、利益、売上共に増加する (木材木製品製造業)。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

